

地歴高等地図

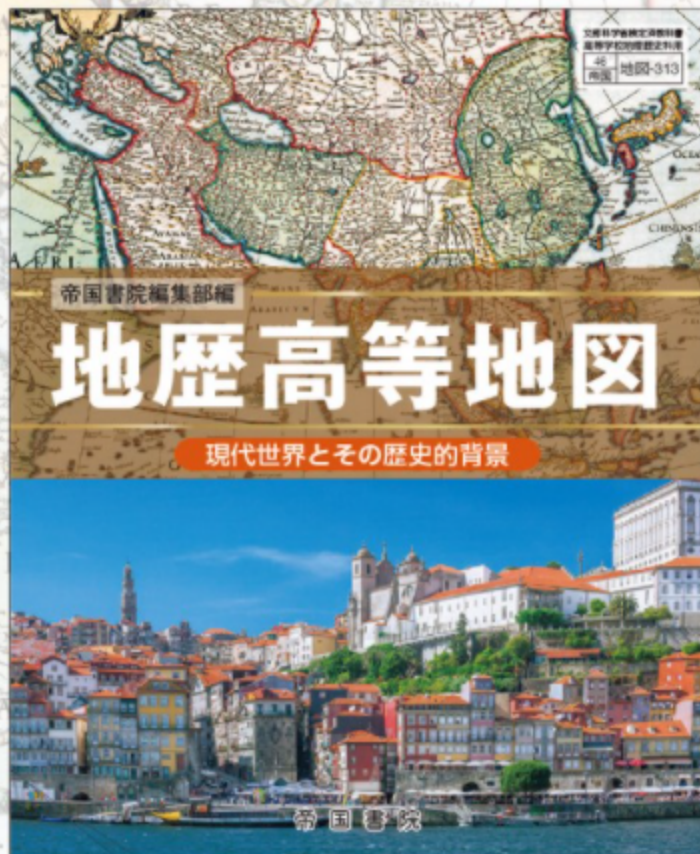
内容解説資料(地図-313)

教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

日本史学習
にも最適！

- 判型: AB判
- ページ数: 174ページ
(平成26年度版比 8ページ増)

※とくに記載がない場合、本資料に示したページは平成30年度版「地歴高等地図」のページを示しています。



現在の地図に歴史を重ね、
歴史の舞台と現代世界の関わりがみえてくる！

- みえてくる① 歴史の舞台の位置関係と今へのつながり
- みえてくる② 自然を背景にした伝統的な文化圏や地域性
- みえてくる③ 重要な歴史的な動き

◆日本史学習への対応を強化！

◆「歴史をみる手がかり」とインデックスの改良で、活用度が向上！

帝国書院

P.45-46

主権国家の確立

主に対応する世界史の学習単元

ドイツ諸侯の自立化と領邦の形成
イタリア諸都市の繁栄
フランス王権の伸長と王領地の拡大

歴史をみる手がかりから得られること

◆中世(1400年ごろ)、近世(1740年ごろ)ともに、神聖ローマ帝国領などドイツ・イタリア方面では、複数の領主によって各地が細かく分割支配されていた。

◆一方でフランス方面では、中世にはブルゴーニュ公領などと分裂しているものの、百年戦争を経て、すでに近世には現在に近い領域が統一されていた。

このページからみえてくる時間的なつながり

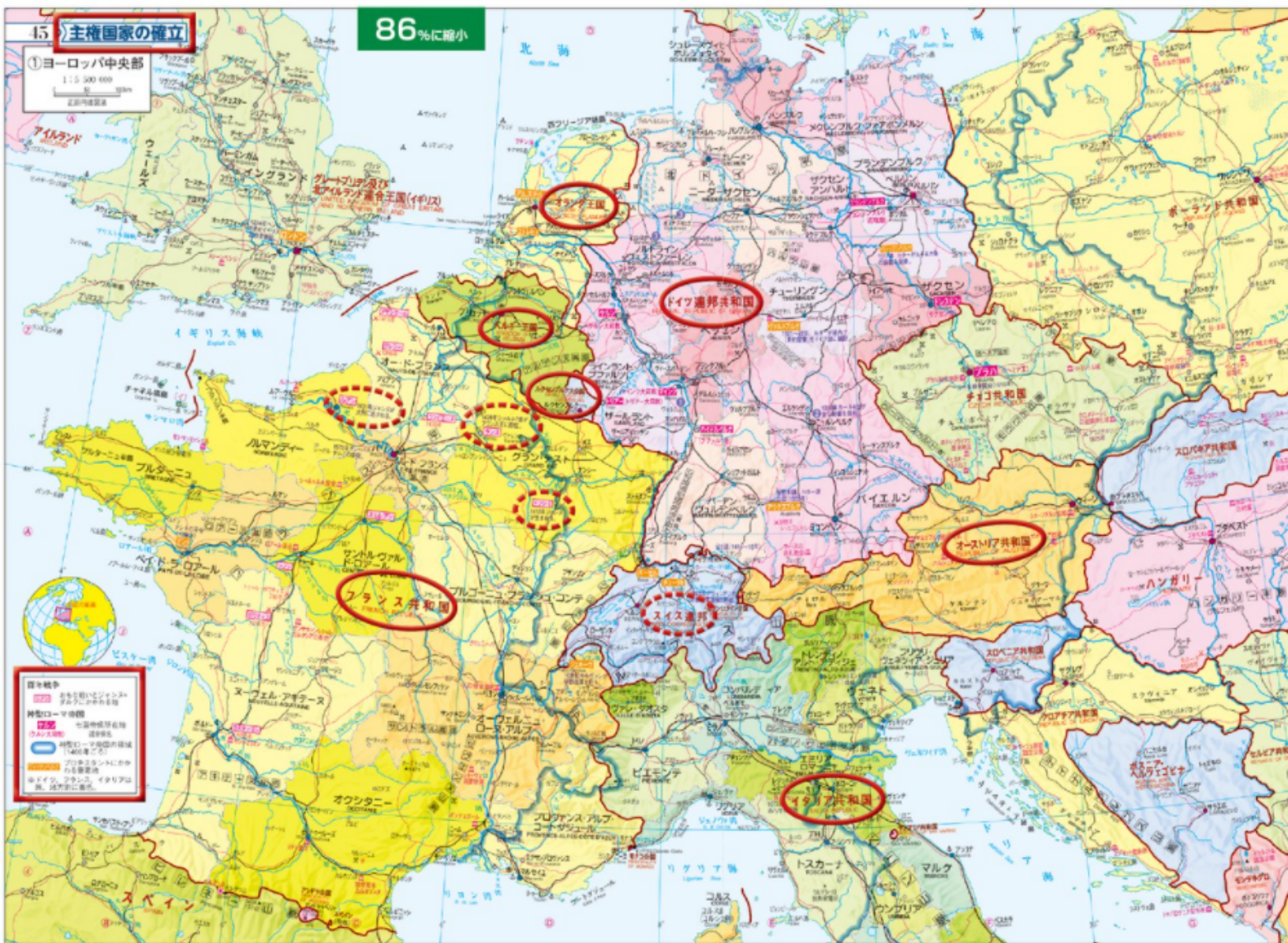
◆①図の「神聖ローマ帝国の領域(1400年ごろ)」の特設凡例から、統合EU内部の小さな国である、オランダ・ベルギー・ルクセンブルク・オーストリアは、神聖ローマ帝国内にあったことがわかります。②図とあわせてみると、それらの国々が神聖ローマ帝国内の領邦が独立していったものであることや、統合EUの内にある多様性の背景がみえてきます。

◆ドイツは神聖ローマ帝国期から諸侯の独立性が強く、今でも州の自治権が強い連邦制の国家であることが、正式国名からもわかります。

その他にわかること

◆①図から、百年戦争におけるジャンヌ・ダルクの活躍の舞台がわかります。ドンレミで生まれ、ランスでシャルル7世即位に立ち会い、ルアンで火刑に処されるまでの短い生涯の流れがみえてきます。

◆③図から、スイスは近世には独立しており、現在、永世中立国であるなど独自性が強い背景がみえてきます。



P.31-32

「肥沃な三日月地帯」と古代オリエントの変遷

主に対応する世界史の学習単元

オリエント世界の形成
古代オリエントの統一

歴史をみる手がかりから得られること

◆古代オリエントでは、前16～前11世紀にはヒッタイト・カッシート・ミタンニ・新王国エジプトによる覇権争い、前7～前6世紀にはアッシリアによる統一、前6～前5世紀前半にはアケメネス朝ペルシアによる統一と、様々に勢力範囲が変遷しているが、どれも「肥沃な三日月地帯」と呼ばれる地域が舞台となっている。

土地利用と植生表現や特設凡例などからみえること

◆ティグリス川・ユーフラテス川沿いからナイル川沿いに至る「肥沃な三日月地帯」では、乾燥地帯にもかかわらず灌漑地や耕地が広がっていることから、人が定住し、小麦・綿花などが生産されてきたことがわかります。この地域を舞台に、古代から都市文明と王朝が栄えたこと、現在も都市が多い背景がみえてきます。

その他にわかること

◆①図中の「おもな油田」の分布とパイプラインから、ペルシア湾沿岸地域やメソポタミア地域、カスピ海沿岸地域は現在、石油の一大産地であることや、ホルムズ海峡が石油輸出の上で重要な背景がみえてきます。
◆②図から、シリア北側国境はトルコと接し、欧州をめざすシリア難民がトルコを経由した背景がわかります。



図取り拡大
トルコ全境やホルムズ海峡が見える図取りに拡大(古代オリエントの変遷も確認しやすく)

86%に縮小

① オリエント
1:5,000,000

「肥沃な三日月地帯」と古代オリエントの変遷

歴史をみる手がかりから得られること



古代より栄えたメソポタミア・エジプトの自然環境のようすを、大抵と地形の広がりを見ながら確認してみよう。

P.11-12

農耕民と遊牧民が
せめぎあったところ

主に対応する世界史の学習単元

漢と匈奴のシルクロードをめぐる争い
モンゴルの拡大と中国支配
明の長城建設とモンゴルとの並存

歴史をみる手がかり
から得られること

◆秦や前漢の時代から、長城は中国王朝と北方民族の境界地帯で築かれていた。前漢は、東西交渉の玄関口である西の玉門関まで長城を伸ばした。

◆モンゴル帝国は、13世紀に中国全土を支配下におさめたが、そのモンゴルを北方に追いやった明は、16世紀ごろにはモンゴル(韃靼)との境界地帯に長城を築き、国境を固めた。

土地利用と植生表現や特設凡例など
からみえること

◆北方遊牧民の多くが、モンゴル高原の草地・牧草地を本拠としていたこと、一方、華北平原・長江流域には、農耕民が暮らす畑作地・稲作地が広がっていることが確認できます。北方遊牧民の侵入にそなえるための万里の長城は、草地と畑作地の境界を仕切るよう東西に長く築かれたことがみえてきます。

◆自然環境の境目に築かれた長城が、結果として、現在の中国の省と少数民族自治区〔フホト(呼和浩特)など当て字の漢字地名が多い〕の境界とも、概ね一致していることがわかります。

その他にわかること

◆③図から、前漢以降の中国王朝の領土は北西方面に細長く飛び出ていること、①図から、河西回廊があった現在の甘肃省も、北西方面に細長く伸びていることがわかります。河西回廊では東西交通路を守るように長城が築かれており、歴代中国王朝にとっての重要性がみえてきます。



P.61-62

ロシアの拡大
—不凍港の少ない寒冷な地—

主に対応する世界史の学習単元

ロシアの台頭と東方進出
ロシアの南下政策

歴史をみる手がかり
から得られること

- ◆ロシアは15世紀以降、主に東方のシベリアへと勢力を広げ、17世紀にはユーラシア大陸の東端にまで達したことがわかる。
- ◆18世紀からは南下に転じ、黒海への進出や北京条約による沿海州獲得などをおこない、広大な範囲の領土を獲得した。19世紀～20世紀初頭にはシベリア鉄道を建設して、広い国土を結んだ。

土地利用と植生表現や特設凡例など
からみえること

- ◆ロシアは15～18世紀に勢力を東西に広げましたが、③図から、ウラル山脈から東のシベリアの大部分が厳しい寒冷地であることがわかります。特に海岸線の多くは北極に面している、冬季には港が凍り、船舶の通行が不可能になります。①図の「冬に凍る海」と②ネヴァ川の写真で、それを表現しました。海洋進出を企てたロシアにとって、これは大きな障害でした。そこで、19世紀以降ロシアは「不凍港」を求めて軍力を伴う「南下政策」を展開し、黒海沿岸のセヴァストポリ、日本海に面したウラジオストクなどを確保しました。自然環境がロシアの発展に与えた影響が、明確にみえてきます。

その他にわかること

- ◆①図中の「冬に凍る海」の特別な表現により、緯度が同じでも冬に凍る海、凍らない海があることがわかります。高緯度のムルマンスクが、暖流の北大西洋海流の影響で「不凍港」である一方、それより低緯度のオホーツク海沿岸は冬に凍ります。北海道に流氷がきて独自の景観をつくり、観光に役かっている背景がみえてきます。



P.33-34

今も攻防の続く 聖書の舞台

主に対応する世界史の学習単元

中東戦争とパレスチナ問題

歴史をみる手がかりから得られること

- ◆イスラエル建国直前(1947年)のエルサレム周辺は、アラブ人居住地に囲まれる中で国連管理地域であったことがわかる。
- ◆イスラエル建国後(1949年)のエルサレムは、イスラエルとヨルダンが東西で対峙し、④図のように中立地帯も置かれたが、1967年の第3次中東戦争でイスラエルがエルサレム全域を占領して以後、実効支配が続いていることがわかる。

このページからみえてくる重要な歴史的な動き

- ◆①～③図から、イスラエルが建国以来、現在に至るまで、アラブ諸国との対立をくり返しながその勢力の拡大をはかってきた過程がわかります。
- ◆④図は、歴史的背景を強調するため、あえて手描きの絵図を採用しています。キリスト教の聖墳墓教会・イスラームの岩のドーム・ユダヤ教の嘆きの壁という三宗教の聖地が同一市内に、しかも接近してあることが読み取れます。また、1949～67年の中立地帯の設定、各教徒の居住地区のすみわけなど、緊張状態が続いていることがわかります。

その他にわかること

- ◆①図から、**イエス＝キリスト**がベツレヘムで誕生し、エルサレムで処刑され、復活するまでの足跡や聖書の舞台がわかります。
- ◆④図からは、エルサレム市内で**イエスが最後に歩いた道(ヴィア・ドロローサ)**もわかります。



P.95-96

古来より交通の大動脈であった瀬戸内海

主に対応する日本史の学習単元

商工業の発達
東アジアとの交易

歴史をみる手がかりから得られること

◆③図と⑥図から、瀬戸内海は古代より、大宰府と畿内の二つの拠点を結ぶなど重要航路であったこと、中世(15世紀半ば)には畿内の入口に位置する兵庫北関に積荷を輸送する拠点の港が点在していたことがわかる。その後、近世の瀬戸内海には、朝鮮通信使が訪れたことや、西廻り航路が開発されて北前船が活躍したこと、20世紀初めになって、鉄道の時代が始まったことがわかる。

位置関係や時間的なつながりからみえること

◆古代から近世にかけて主要な輸送手段であった帆船は、荒れた天候を避けるため、港で風待ちや潮待ちをすることがありました。①図内の堂・牛窓・下津井・鞆・上関などはそうした寄港地でしたが、同時に物資輸送の拠点ともなりました。●鞆の浦の常夜灯の写真とあわせて、港の位置・情景を把握することができます。
◆明治に入り鉄道が敷設されると、交通の中心は船舶から鉄道に移り、神戸・岡山・広島などが沿線の都市として発達しました。また現在では、高速道路が鉄道と並行して走っています。①図はこうした交通手段の移り変わりを知る資料ともなっています。

その他にわかること

◆①図・⑥図から、村上水軍は、海峡にあたる因島・能島・来島を拠点とすることで、制海権を握ったことがみえてきます。現在の「しまなみ海道」付近にあたります。
◆④図から、戦前の広島市には、司令部や兵器工場など多くの軍用地があったこと、広島市中心部が原爆の爆心地となり、半径2km以上が焼失したことがわかります。



96

歴史をみる手がかり

5 中世の中国・西国地方の交通

Aの範囲の拡大図

瀬戸内海路史

原形・古代

中世時代

近世時代

定時一江戸時代

明治時代

昭和時代

平成時代

現代

2000m

1500m

1000m

500m

0m

500m

1000m

1500m

2000m

2500m

3000m

3500m

4000m

86%に縮小

17

NEW



●鞆の浦に残る常夜灯と船着き場の「屋敷」
鞆の浦は瀬戸内海の東部の瀬目に位置し、瀬が浅く、瀬の奥の港として発達した。浦には常夜灯が点在し、船の出入りも盛んであった。

つづいてみよう 西廻り航路をたどり、風待ち、潮待ちで荷役を繰り返してみよう。

P.101-102

水運で結ばれた 歴史の舞台

主に対応する日本史の学習単元

律令国家の形成
交通の整備と発達

歴史をみる手がかりから得られること

- ◆古代の難波宮・長岡京・平安京は、どこも淀川水運を活用できる位置にあったことがわかる。室町時代には約400もの関所（通行料を徴収）が設けられたほど、古代・中世に淀川水運が盛んに利用されていたことがわかる。
- ◆近世には、豊臣秀吉による文禄堤の造成など治水工事が行われたこと、現代になると巨椋池が干拓され農地になったことから、淀川水系の利用のされ方が、中世のころと比べて変化していったことがわかる。

特設凡例などからみえること

- ◆①図では、近畿地方の歴史的な河川・水路（中世の水運）を、現在の地図の上に重ねています。そのことにより、政治都市の京都と商業都市の大阪が淀川によって結びついていたこと、桂川などの河川・水路が京都を巡っていたこと、広い面積を持つ巨椋池があったこと、大阪湾と奈良盆地を結んでいた大和川など、現在の地図だけでは気づかない点が多数みえてきます。特に、中世から近世にかけての交通路（物資・人の輸送路）の発達に関する資料や、新田開発に関する資料などとして活用できます。

その他にわかること

- ◆①図中の南北朝時代の「おもな戦い・城址・南朝の臨時の内裏」の凡例から、楠木正成が活躍した赤坂城跡や、四条畷の戦い、南朝の臨時内裏がおかれた住吉大社など、歴史の舞台の位置関係がわかります。



拡大



原寸大
（一部改変）

P.125-126

独自の文化が華開いた 東北地方

主に対応する日本史の学習単元

東北経営
交通の整備と発達

歴史をみる手がかり から得られること

- ◆城（領守府）・柵が置かれた場所と年代から、朝廷の東北経営が川や海に沿って少しずつ北へ進んでいったことがわかる。
- ◆「古代の道」と「関」から、東北地方は白河関、念珠ヶ関（鼠ヶ関）、菊多関（勿來関）の三つの関で主な通行が管理できたことがわかる。

このページからみえてくる歴史的な動き

- ◆朝廷の東北経営は、西側では日本海の沿岸、東側では北上川流域に沿って、しだいに北上していきました。これは東北地方は奥羽山脈などの山地が多くを占めているためと考えられます。①図では鳥瞰図を用いて、その地形的特色を強調しました。奥羽山脈に沿ってのびていた古代の交通路は、江戸時代には奥州道中など南北を結ぶ街道となったこと、そして現在は東北自動車道や東北新幹線が通っていることがみえてきます。
- ◆②図からは、奥州藤原氏の拠点である平泉が、北上川の河川・水路を重要な立地条件としていることがわかります。

その他にわかること

- ◆①図の松尾芭蕉「奥の細道」ルートから、江戸を出発した芭蕉が白河関を越えて東北地方に入ったこと、松島→平泉→立石寺→最上川→象潟とめぐった後、日本海沿いに南下したことがわかります。芭蕉が俳句を詠んだ地が現在のどのあたりかを確認できます。



P.131-132

旧石器～古墳時代の遺跡・古墳

江戸時代の交通・産業・交易

資料を充実
現代の資料を基として
新図を掲載

このページからみえること

- ◆ P.131①図から、弥生時代の遺跡が、川沿いで人が住みやすく農耕に適した沖積地に分布していることがわかります。
- ◆ P.131②図から、古墳の分布は、九州地方、中国・四国地方、近畿地方の西日本だけでなく、関東地方など東日本にも広がっていたことがみえます。
- ◆ P.132①図から、江戸時代には、江戸を起点とした陸上交通路が整備されたこと、また、江戸・大阪を起点として水上での物流が活発であったことがみえます。
- ◆ P.132②図から、江戸時代には長崎口・摩羅口・対馬口・松前口の四つの窓口があったことがわかります。四つの窓口を経由して金・銀などが輸出される一方、生糸・絹織物などが輸入され、当時の日本に世界各地の物品が届いていたことがわかります。

131 旧石器～古墳時代の遺跡・古墳

1 おもな遺跡の分布
1:500,000

2 おもな古墳の分布
1:300,000

86%に縮小

① 旧石器時代の遺跡 (旧石器時代の遺跡) 縄文時代の遺跡 (縄文時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 古墳時代の遺跡 (古墳時代の遺跡)

② 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡)

③ 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡)

④ 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡) 弥生時代の遺跡 (弥生時代の遺跡)

江戸時代の交通・産業・交易 (1:2)

1 交通路 (江戸時代)

2 特産品・消費品、主な産地 (江戸時代)

3 江戸時代の外国との交易 (江戸時代)

26

① 交通路 (江戸時代) 陸上交通路 (陸上交通路) 水陸交通路 (水陸交通路) 海上交通路 (海上交通路)

② 特産品・消費品、主な産地 (江戸時代) 特産品 (特産品) 消費品 (消費品) 主な産地 (主な産地)

③ 江戸時代の外国との交易 (江戸時代) 長崎 (長崎) 摩羅 (摩羅) 対馬 (対馬) 松前 (松前)

P.133

日本の近代化と第二次世界大戦

新図を掲載
現代の資料を基として
新図を掲載

このページからみえること

- ◆ ①図から、産業発展のために官営工場や鉱山を結ぶ鉄道が、明治時代の短い期間で整備されたことがわかります。
- ◆ ①図と④図をあわせてみると、明治期に軍部の拠点や造船所・砲兵工廠 (兵器工場) などが置かれた都市では、第二次世界大戦時の空襲による一般民間人死者数も多かったことがみえます。

※ P.134には「高度経済成長と現代の日本」を掲載。

133 日本の近代化と第二次世界大戦

1 産業と鉄道 (明治時代)

2 自由民権運動の広がり (明治時代)

3 自由民権運動の広がり (明治時代)

4 第二次世界大戦での空襲被害

86%に縮小

① 産業と鉄道 (明治時代) 官営工場 (官営工場) 官営工場 (官営工場) 官営工場 (官営工場) 官営工場 (官営工場)

② 自由民権運動の広がり (明治時代) 自由民権運動 (自由民権運動) 自由民権運動 (自由民権運動) 自由民権運動 (自由民権運動)

③ 自由民権運動の広がり (明治時代) 自由民権運動 (自由民権運動) 自由民権運動 (自由民権運動) 自由民権運動 (自由民権運動)

④ 第二次世界大戦での空襲被害 (第二次世界大戦) 空襲被害 (空襲被害) 空襲被害 (空襲被害) 空襲被害 (空襲被害)

地理の授業でも活用できる資料が充実！

86%に縮小

② 地積平野 一新旧地形図の比較で読み取る土地利用の変化

① 河津段丘 一新旧地形図

③ 台地 一新旧地形図

④ 沼澤地 一新旧地形図

① 旧版地形図 ② 新版地形図

旧版地形図を新設

ページ	タイトル	ページ	タイトル
P.135-136	日本の自然環境、日本の自然災害と防災	P.145-146	言語・宗教・人口・環境問題
P.137-138	地形(一)	P.147-148	地図投影法、地図にみる世界、ほか
P.139-140	地形(二)・集落	P.149-158	統計資料
P.141-142	気候(一)	P.172	世界の交通・等時帯
P.143-144	気候(二)	P.173-174	世界の自然環境

86%に縮小

① 日本の地震と火山の噴火

② 日本大地震の歴史と教訓

③ 日本のおもな自然災害

④ 水を治める 一新旧地形図

北アメリカプレート
ユーラシアプレート
太平洋プレート
フィリピン海プレート

1783(天明3)年の浅間山の噴火
1773年(天明3)年の浅間山の噴火
1773年(天明3)年の浅間山の噴火
1773年(天明3)年の浅間山の噴火

1854年(安政) 南海トラフ地震 M8.4
1945年(昭和) 東海地震 M8.0
1964年(昭和) 東北地方太平洋沖地震 M9.0
1995年(平成) 阪神・淡路大震災 M7.3
2011年(平成) 東北地方太平洋沖地震 M9.1

おもな自然災害の震度(1869年以降)と1883年以降の火山の噴火

④ 水を治める 一新旧地形図

◆新旧地形図の比較を新たに盛り込むことで、歴史的な変化も読み取れるようになりました。②の④図を見ると、養蚕が盛んだった昭和27年には一面桑畑だった片品川沿いの段丘面が、平成15年には一面、畑に変化していることがわかります。

◆②図から、駿河トラフから南海トラフにかけてのプレートの境では100～150年周期で巨大地震が繰り返し発生していること、③の写真のように過去の津波被害を教訓とすることなど、防災の手がかりがみえてきます。

ユニバーサルデザイン, アクティブラーニングに対応!

カラーユニバーサルデザインに配慮

- ・稲作地や草地・牧草地に地紋を入れたり、クサ色(緑色)で草地・牧草地の範囲をふちどったりすることで、色の違いを判別しやすくしています。
- ・色覚特性をもつ生徒も見やすいように、緑の地色に赤文字の組み合わせを極力避けています。また、国名や都道府県名の赤い文字には黒でふちどりをしています。



↑ P.11-12「農耕民と遊牧民がせめぎあったところ」(一部分、原寸大)

アクティブラーニングへの対応

- ・生徒の主体的・協働的な学習が促されるように、「やってみよう」を設置しています。課題意識をもって学習に取り組めるようにしています。

やってみよう ①図で最も残る万里の長城の位置を確認し、③図でつくられた年代を調べてみよう。



地図帳用紙の研究を重ね、より読み取りやすく、書き込みも可能に

- ・従来よりも光沢を抑えて光を反射しにくく、さらに、地図に書き込みがしやすい紙を開発しました。今まで以上に読み取りやすく、効果的に学習できます。
- ※ 本資料は新しい地図帳と同じ紙を使用しています。

さくいで地名も探しやすく

- ・フォントを変更し、文字サイズも大きくするなど、地名が探しやすくなりました。

5色印刷による美しい地図

- ・田などが鮮やかに見えるように、通常の4色(赤・青・黄・黒)に特製の「クサ色(緑色)」を加えた5色のインキで印刷しています。
- 美しい地図表現を追求しています。

文字表現の工夫

- ・地図中の地名・産物名などの文字は、原則ページをまたがずに、書体・大きさにメリハリをつけています。読みやすいように配慮しています。

アイアンレンジ	68 G2	アナボリス	68 K4N
アイオワ	67 H3	アネト山	58 C1
アイダ	8 F2N	アーネム	61 F2
アイスランド共和国	62 G8-C15	アーネムランド半島	78 E-F25
アイゼンシュタット	44 F25	アムル高原	35 D3
アイダホ	67 C-D3N	アバディーン	38 G35
アイビツ島	58 C2N	アバディーン(アメリカ)	67 G25
アイリッシュ島	58 D4N	アバディーン(イギリス)	58 E2
アイスランド	58 C4N	アバワチア山脈	68 J-L3-4
アインザラヒ	58 B3	アバル	78 G6N
アインツルン	31 C1	アビヤ	78 F5
アイントローフェン	47 C3	アビジャン	35 C5
アダム	21 E2	アブカイ	38 G4
アダムスブルグ	43 D5N	アフガニスタン・イスラム共和国	25 B-C2
アダムスブルグ	43 E5	アブジバ	35 D5N
アダムスブルグ	43 G3	アブジンベラ特産島	37 F45
アダムスブルグ	43 G5	アブジン	38 H4
アダムスブルグ	44 G3	アフワーズ	38 G35
アダムスブルグ	54 J4	アスタルリツク	58 D-E2-4
アダムスブルグ	55 G45	アヘン	43 D3
		アゾル	22 J5

アイアンレンジ	68 G2	アナボリス	68 K4N
アイオワ	67 H3	アネト山	58 C1
アイダ	8 F2N	アーネム	61 F2
アイスランド共和国	62 G8-C15	アーネムランド半島	78 E-F25
アイゼンシュタット	44 F25	アムル高原	35 D3
アイダホ	67 C-D3N	アバディーン	38 G35
アイビツ島	58 C2N	アバディーン(アメリカ)	67 G25
アイリッシュ島	58 D4N	アバディーン(イギリス)	58 E2
アイスランド	58 C4N	アバワチア山脈	68 J-L3-4
アインザラヒ	58 B3	アバル	78 G6N
アインツルン	31 D2	アビヤ	78 F5
アイントローフェン	47 C3	アビジャン	35 C5
アダム	21 E2	アブカイ	38 G4
アダムスブルグ	43 D5N	アフガニスタン・イスラム共和国	25 B-C2
アダムスブルグ	43 E5	アブジバ	35 D5N
アダムスブルグ	43 G3	アブジンベラ特産島	37 F45
アダムスブルグ	43 G5	アブジン	38 H4
アダムスブルグ	44 G3	アフワーズ	38 G35
アダムスブルグ	54 J4	アスタルリツク	58 D-E2-4
アダムスブルグ	55 G45	アヘン	43 D3

新

『地歴高等地図』 の目次

3		目次			
ア シ ア	世界の国々	1-2			
	目次、地図の凡例/歴史インデックス	3-4			
	ユーラシア	5-6			
	東アジア	7-8			
	中国西部	9-10			
	中国北部・モンゴル	11-12			
	西域	13-14			
	西安・洛陽周辺/ペキン	15-16			
	長江デルタ/台湾海峡周辺	17-18			
	朝鮮半島	19-20			
	東南アジア	21-22			
	インドシナ半島・マレー半島	23-24			
	南アジア	25-26			
	インドス川・ガンジス川流域	27-28			
	中央アジア	29-30			
	オリエント	31-32			
	パレスチナ/エルサレム都市圏	33-34			
	ア フ リ カ	アフリカ・インド洋	35-36		
		南アジア・北アフリカ・地中海	37-38		
中・南アフリカ		39-40			
ヨーロッパ・地中海		41-42			
ヨーロッパ東部		43-44			
ヨーロッパ中部		45-46			
ライン川周辺		47-48			
ロンドン/イギリス・アイルランド		49-50			
パリ、ベルリン/バルト海周辺		51-52			
イタリア半島・エーゲ海		53-54			
イベリア半島・アフリカ北西部/ローマ		55-56			
東ヨーロッパ/バルカン半島/モスクワ		57-58			
東ヨーロッパ/ロシア連邦東部		59-60			
ロシア周辺		61-62			
北 米 リ ク		南北アメリカ・大西洋/北極、南極	63-64		
		北アメリカ	65-66		
		アメリカ合衆国	67-68		
		アメリカ合衆国中部・東部/ニューヨーク	69-70		
		アメリカ合衆国西部/ロサンゼルス	71-72		
	中央アメリカ	73-74			
	南アメリカ	75-76			
	オ セ ア ニ ヤ	太平洋/ハワイ諸島	77-78		
		太平洋諸島	79-80		
		オーストラリア・ニュージーランド	81-82		
		日 本	日本の国界/行政区分の変遷	83-84	
			日本の位置とまわりの国々	85-86	
			日本列島(Ⅰ)	87-88	
			日本列島(Ⅱ)/津横島	89-90	
			九州地方	91-92	
			九州北部/福岡市中心部	93-94	
			中国・西国地方/広州市中心部	95-96	
			近畿地方/神戸市中心部	97-98	
			近畿中央部/奈良盆地	99-100	
京阪谷/堺市中心部			101-102		
大坂市			103-104		
京都市			105-106		
地誌論とその周辺			107-108		
中部地方			109-110		
東海・中山道とその周辺/名古屋市			111-112		
関東地方			113-114		
東京大都市圏	115-116				
現在の東京	117-118				
江戸	119-120				
江戸城/鎌倉、横浜市中心部	121-122				
東北地方/仙台市中心部	123-124				
東北地方とその周辺	125-126				
札幌中心部、函館市/北海道南部・東北地方北部	127-128				
北海道地方/千島列島	129-130				
東 洋 史	石狩-室蘭時代の道南・道東/江戸時代の交通・商業	131-132			
	日本の近代化と第二次世界大戦/島原藩決戦と近代化の日本	133-134			
	日本の自然環境/日本の自然災害と防災	135-136			
	地形・集落/気候	137-144			
	貿易・宗教・人口・環境問題	145-146			
	地図投影法/地図にみる世界、地球の歴史	147-148			
	東 洋 史	統計資料	149-158		
		おもな地名のさくいん/歴史をみる手がかりさくいん	159-171		
		世界の交通・特産物	172		
		世界の自然環境	173-174		

授業への万全のサポート

※現在編集作業中のため、下記の内容は一部変更となる可能性があります。
教師用指導書やデジタル地図帳は、平成30年4月までに発刊予定です。

指導者用デジタル地図帳 新詳高等地図・標準高等地図・地歴高等地図

『新詳高等地図』、『標準高等地図』、『地歴高等地図』に準拠した指導者用デジタル地図帳です。地図を大きく映すことで、地名の確認などがしやすくなるとともに、教えたいことに焦点化し、効率の良い授業ができます。

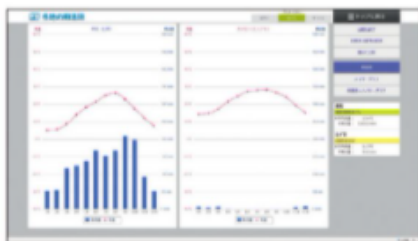
※『地歴高等地図』と『新詳高等地図』の世界・日本部分と、『標準高等地図』の世界部分・現代社会資料図を収録予定です。



▲白地図への切り替え、拡大・縮小、ペンツールで書き消しなどが可能。

国名	人口	面積	人口密度	GDP	成長率
中国	13.9億	9,600,000	144	14.7兆	7.0%
インド	13.8億	3,287,000	419	2.5兆	7.3%
アメリカ合衆国	3.2億	9,529,000	34	21.2兆	2.3%
ロシア	1.4億	17,098,000	82	1.7兆	1.3%
ブラジル	2.1億	8,511,000	246	1.8兆	1.1%
インドネシア	2.6億	1,919,000	135	1.3兆	5.0%
フランス	0.7億	643,000	109	2.8兆	0.4%
ドイツ	0.8億	357,000	224	3.9兆	-0.1%
韓国	0.5億	100,000	500	1.6兆	2.7%
日本	1.2億	377,000	318	5.1兆	-0.2%

▲世界・日本のさまざまな統計資料を収録。



▲世界・日本各地の雨温図を収録。

※商品画像および掲載情報は変更になる可能性があります。

教師用指導書、指導者用デジタル地図帳、準拠ワークなど、周辺教材を充実させ、万全のサポート体制を整えております。弊社「高校教科書・副教材カタログ」「高等学校指導者用商品・サポート案内」に詳細情報を掲載しております。あわせてご覧ください。

見本 サンプル ご審査用見本、または部分サンプルをご用意しています。弊社までご連絡ください。

地歴高等地図 指導資料 DVD-ROM 付

- ・「指導と研究」には、各図のねらいや解説、地図帳を使った活用例を掲載予定です。
- ・「付録 DVD-ROM」には、地図帳基本図データ集などを収録予定です。
- ・「付録 地図ワークシート」2冊を、新規で収録予定です。

教師用指導書

指導者用デジタル地図帳 新詳高等地図・標準高等地図・地歴高等地図

サン
プル

・高等学校地図帳の誌面と補助コンテンツ(統計資料や雨温図など)を収録予定です。
⇒サンプルがございます(DVD-ROM および弊社ウェブサイト)。

準拠ワーク

楽しい地図ワーク 基礎編

見本

・地図帳に対応。世界・日本の基礎地名の確認ができます。

ウェブサイト

・最新の統計・資料・写真など豊富なコンテンツを公開しています。

⇒今すぐアクセス/ <http://www.teikokushoin.co.jp/>

定期冊子

・ご希望の先生に無料でお届けしています。
⇒ご希望の方は、弊社までご連絡ください。
一部/バックナンバーもご利用しています。

- 地図・地理資料 年4回発行
- 世界史のしおり 年3回発行
- 日本史かわら版 年2回発行

地図帳と地理・世界史教科書のラインアップ

●地図帳



新詳高等地図 (地図-310)

判型: AB判
(地歴高等地図と同じ)



標準高等地図-地図でよむ現代社会- (地図-308)

判型: A4判

●地理 A・B 教科書



高等学校 新地理 A (地A-308)



高校生の地理 A (地A-312)



新詳地理 B (地B-304)

●世界史 A・B 教科書



明新世界史 A (世A-314)



新詳世界史 B (世B-312)

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ◆現代世界を理解し、その歴史的背景がおさえられるよう、世界・日本の現在の地図に歴史的要素が重ねられている。 ◆全世界および日本の各地域が取り上げられ、地理歴史科・公民科の学習に必要な地図・資料・統計が掲載されている。 ◆等高線彩表現や土地利用・植生表現など、世界・日本の諸地域に応じてさまざまな地図表現が効果的に用いられている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆風土に着目し、自然環境を背景にした広域文化圏を読み取れる図取りや表現を工夫した地図で、地理・歴史共通の目的である「異文化理解」がはかれる。 ・世界史・日本史の学習の際に、歴史的事件などの位置関係と今へのつながりが地図や資料・統計から把握できる。 ・AB判のワイドな判型を生かした地図で、全世界および日本の各地域が取り上げられている。 ・都市図が豊富に掲載されているため、世界と日本の都市のようすか理解できる。 ・日本を含め、世界の地形や気候のようす、民族や宗教の分布などが理解できる資料が掲載されている。 ・日本の領土とその広がりか正しく学べる地図・資料が掲載されている。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> ◆政治・経済の重要地域だけでなく、国家の枠を越えた文化圏や文化の中心地を読み取れる図取りを多数掲載しているため、世界の諸地域への理解が深まる。 ・メインの地図を読む際に役立つ「歴史をみる手がかり」が随所に設けられていて、地図をより効果的に活用できる。 ・歴史地名・事項を地図中に多数掲載しているため、世界史・日本史で活用できる。 ・統計資料ページでは、すべての国の正式名称と主要な統計が掲載されている。
表記・表現 および 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ◆世界・日本の地図ページは、土地利用・植生表現と等高線彩表現を使い分けているため、世界の諸地域文化の形成を自然環境と関連づけて読み取れる。 ・色覚に特性をもつ生徒でも、色の違いを判別して地図や資料が読み取れるように色彩表現が工夫されている。土地利用と植生の図では一部の凡例に模様(地紋)が入れられるなど、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。 ・「やってみよう!」のコーナーが設置され、地図を読むための手がかりとして生徒が取り組みやすい内容となっている。 ・世界地図ページには位置図が設けられ、当該地図の位置が確認しやすくなっている。 ・地理・歴史双方での活用を考慮して、現地語表記と通称が併記されている。 ・「もくじ」に加えて、風土・世界史・日本史・世界の都市・日本の都市のテーマごとにインデックスが掲載されていて、学習の際に便利である。 ・さくいは、史跡・歴史的な地名を青字に、国名・首都を赤字にするなど、重要な地名や地名の種類がわかるように配慮されている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取りやすい地図にするため、クサ色(緑色)を加えた5色刷りで地図が美しく表現されている。 ・紙は反射を抑えつつ鮮明に発色し、裏写りしない軽量なものが使用されているため、地図・写真が美しく鮮明に表現されている。 ・長期の使用に耐えうるよう、糸かがりしうえで補付けされた堅牢な製本になっている。 ・環境に配慮された再生紙と植物油インキが使用されている。

別記著作者

川北 稔(大阪大学 名誉教授)

◆ 西洋史

黒田 日出男(東京大学 名誉教授)

◆ 日本史

大内 宏一(早稲田大学 名誉教授)

◆ 西洋史

原田 智仁(兵庫教育大学 教授)

◆ 歴史教育

小口 干明(筑波大学 教授)

◆ 人文地理学

寺尾 隆雄(大妻中学高等学校)

◆ 日本史

地図帳は、科目を問わず ご使用いただけます!

地図帳は、文部科学省検定済教科書です。
地理はもちろん、世界史・日本史・現代社会などの
地理歴史科・公民科でご使用いただけます。



株式会社 帝国書院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-29

TEL 03-3262-0831

URL <http://www.teikokushoin.co.jp/>

※本資料の掲載ページは、編集前のもを含められます。